

連合長崎
第27回
定期大会

私たちが未来を変える ～安心社会に向けて～



連合長崎は、10月24日(木)14時から長崎県勤労福祉会館において第27回定期大会を開催しました。

大会は、小西副会長の開会あいさつにはじまり、議長団にＪＰ労組・末継代議員、電力総連・中山代議員、電機連合・伊藤代議員を選出して議事が進められました。

冒頭、宮崎会長があいさつ(別記)を行い、その後、連合本部 安永副事務局長、平田長崎県副知事、熊谷長崎労働局労働基準部長、高宮長崎副市長、白川国民民主党県総支部連合会副代表、山田立憲民主党県連合代表、坂本社民党県連合幹事長から激励のあいさつを受けました。

その後、「第18回フォトコンテスト」最優秀賞の鈴木寛太郎さん(佐世保市役所職員組合OB)の表彰を行い、2019年2月1日から今回の定期大会までの組織拡大実績に基づき、自治労へ「組織拡大に関わる交付金」を授与しました。

引き続き、一般経過報告、2019春季生活闘争総括、2019年度連合長崎選挙総括、2019年度会計報告・会計監査報告をし、承認されました。

審議事項では、第1号議案「2020-2021年度運動方針(案)」、第2号議案「2020年度予算(案)」、第3号

議案「2020・2021年度連合長崎役員選出(案)」の提案を行い、それぞれが承認されました。

この大会で、副会長3名を含む計6名の役員が退任をしました。役員をされた皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、宮崎会長・高藤事務局長での2期目の体制で「組織強化・拡大」「格差是正」等の諸課題に取り組んでいきます。

最後に宮崎会長のガンバロー三唱で、「私たちが未来を変える～安心社会に向けて～」のスローガンのもと、各構成組織、地協・ブロックと連携しながら、今後2年間の取り組みを進めていくことを誓い合いました。



議長団 左から、電機連合 伊藤代議員、電力総連 中山代議員、
ＪＰ労組 末継代議員



～相次ぐ自然災害の発生と

防災・減災の取り組みについて～

まずもって集中豪雨や台風被害によって被災された方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

いつどこでどのような自然災害が発生するかわからない、逆の言い方をすれば、どこでも発生する、私たち自らも自然災害に遭遇しかねない、もはや他人事ではすまされない時代になった、という認識のもと、万全の備えを行うことが重要だと思います。

武雄の豪雨による被害で、新築の家に4月から住み始めて、自然災害共済に入っていない方、新車が水につかり車両保険に入っていない人の話を聞きました。

いざというときの共済ですから、被災した時に、生活再建ができる補償でなければ、組合員と家族の安心は守れません。各組織の役員は、組合員の加入状況とその補償について、こくみん共済coopの職員とも連携しながら具体的に考える機会をぜひ作っていただきたいと思います。

また、防災、減災の取り組みも重要です。連合長崎は、ボランティア委員会での確認をふまえ、「防災士」の資格取得に向けて積極的に取り組むことを確認しました。できるだけ多くの人に防災の専門知識をもってもらうことが、組織的にも社会的にも、さらにはその人の家族を守るという意味でも、とても大事であると認識しています。ぜひ多くの皆さんにチャレンジしていただきたいと思います。

～政治活動について～

まずは、統一地方選挙、参議院議員選挙のお礼について申し上げます。

各組織においては、様々な課題や事情がある中にあって、連合推薦議員の勝利のためにご奮闘いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。

2年前の大会は衆議院議員選挙の真ただ中でしたし、翌年の県知事選挙、そして今年の統一地方選挙、夏の参議院議員選挙ですから、まさに選挙活動に大きな力を注いできた2年間でもありました。

連合長崎の会長の立場で申し上げるならば、この間の選挙戦において、構成組織・地協・ブロックの役員、組合員の皆様のご理解とご協力によって、連合長崎の役割は果たすことができたかと確信しています。

春の統一地方選挙では、一部残念な選挙区はありましたが、県議会における勢力拡大など、激戦を制しての勝利は、最後まであきらめることなく戦い抜くことの重要性を再確認することができました。

夏の参議院選挙、長崎選挙区「白川あゆみ」さんの戦いは、各地区での積極的な活動の結果、残念ながら敗れはしたものの、次につながる戦いを展開することができたと判断します。

そのうえで、申し上げるならば、これまでは民主党を中心に一枚岩でできたことが、国民民主党と立憲民主党に分かれたことで、一部に課題が生じたことは事実です。

こうした状況をふまえ、連合本部は、「与党を利さない」ことを前提に、国民、立憲との政策協定などを締結するとともに、比例候補者の支援体制づくりなど闘うための環境整備を図ってきました。連合長崎としても全ての構成組織が比例候補者の支援体制を明確にするとともに、比例区と選挙区をセットで取り組みを進めてきた結果、最終的には、長崎選挙区「白川あゆみ」さんの戦いを全ての組織が一体となって取り組むことができました。

私たちを取り巻く雇用環境や社会保障をはじめとする生活環境を考えた場合、政治の役割は極めて大きく、その具体的手段である「選挙」の重要性は高まっています。しかしながら、投票率の低さは民主主義の立場からも強い危機感を持ちますし、議員のなり手不足の問題は、極めて深刻です。また最近の首長選挙や地方議会選挙で無投票が多くなっているのは、憂慮すべき事態だと思います。

政治の流れを変えるためには、一人でも多くの有権者が「投票」という行動を行うこと、そして、有権者の選択肢を広げる意味でも、そして今の地域の課題を解決につなげていく意味でも、連合が推薦する「議員」を擁立していかなければなりません。

具体的には、

一つは、来年10月施行予定の波佐見町議選をはじめ今後施行される中間自治体選挙に、各政党と連携し、積極的に対応していくこと。

二つは、次期衆議院議員選挙について、「今の安倍一強政治にストップをかける」ことを基本に据えて、そのためには、与党を利することのないよう野党が一枚岩で戦う体制を作っていくことが重要であると認識します。ただし、連合長崎はあくまでも労働組合であり政党ではありませんから、政党間の問題は政党が責任をもって解決していくことが一義であり、連合長崎はあくまでも応援団としてその環境づくりに最大限の努力を傾注していきたいと考えています。

三つは、次期参議院議員選挙について、まずは、今回の「白川あゆみ」さんの戦いの成果と反省をしっかりと総括しなければなりません。そして次は「必ず勝つ!」と

の覚悟を共有したうえで、全県下的な活動となることも念頭において、できるだけ早い時期から、活動を展開していかなければなりません。

今後、国民民主党と立憲民主党、社民党には十分な連携を求めるとともに、必要に応じて連合長崎も含めて意見交換の場を持ちながら情勢等について共有しつつ、国政選挙はもとより、いわゆる「空白区」解消を含め一つひとつの地方選挙への対応を強化していきたいと考えています。

～組織の強化と発展について～

来年連合長崎は、結成から30年という大きな節目を迎えます。

それまでの歴史も文化も価値観も異なる組織が、そして時には激しく対立していた組織が大団結して全的統一を図ったことの意義は大きく、その象徴的な成果が、2009年の政権交代の実現だったと思います。

顔合わせからはじまり、心合わせ、そして力合わせを実践し、30年という歴史の中で、様々な困難を乗り越え、今があります。

労働者を取り巻く環境は、格差の拡大や少子高齢化に伴う社会基盤の揺らぎ、地方における雇用問題も深刻化しています。AIやIoTへの期待の一方で労働不安も懸念されています。連合が結成された時代よりも環境は厳しくなっているのではないかと感じています。

こういう時だからこそ、連合長崎の果たすべき役割は大きくなってきていますし、組織の発言力、影響力を高めていかなければなりません。

そのためには、数は力です。中期目標である「6万人連合長崎」をスローガンに終わらせるのではなく、「必ず実現する」その決意と覚悟を固めたいと思います。

厳しい環境で働いている人が数多くいます。組織を守るための組織拡大も確かに重要ですが、働く人の

立場にたった組織拡大こそが、今求められています。また、組合員にも、市民からも信頼され、頼りにされる「連合長崎」にしていかなければなりません。そのため「キーワード」は、「共感」だと思います。

地域や現場で何が起きているのか、組合員が困っていることは何か、何を求めているのか、それを役員が把握し、組合員と共感、市民と共感できる活動が何なのかを考えていくことが重要です。

したがって、あらためて、私たちの活動の原点は「職場(現場)、そして組合員」であるということを再確認したいと思います。

これまでの運動を大事にしながらも、ただ毎年同じことをしていくのではなく、一つ一つの行動の目的や意義などを考えながら、丁寧かつ大胆に取り組んでいきたいと思っています。

～総対話活動の実施について～

連合長崎が組織からも組合員からも信頼してもらうためには、連合長崎の取り組みを産別・単組役員や多くの組合員にまで理解してもらうことが重要です。同時に産別、単組の取り組みを連合長崎として把握することも必要です。あわせて各組織の役員の悩みなどを連合長崎として聴きながら、一緒に考えていくことが大事だと感じています。

こうしたことを念頭におきつつ、各構成組織や地協、ブロックとの総対話活動を実施していくことを方針で提起しています。

産別での運営を基本としながら、連合長崎が持つネットワークを活用してそれぞれの単組や組合員が抱える課題の解決につなげていきたいと思っています。

具体的には、今後各組織と相談させていただくこととなりますが、ぜひ積極的な対応をよろしくお願いいたします。

来賓あいさつ



連合本部安永副事務局長



平田副知事



熊谷長崎労働局労働基準部長



高宮長崎副市長



白川国民民主党長崎県連副代表



山田立憲民主党長崎県連代表



坂本社民党長崎県連合幹事長



退任役員あいさつ

2020・2021 年度 連合長崎役員

役 職		氏 名		組 織 名			
会 長	専 従	宮 崎 辰 弥	再	情 報 労 連	再	再	再
副 会 長	非専従	松 田 圭 治	再	自 治 労 連	再	再	再
		長 岡 英 樹	新	U A ゼ ン セ ン	再	再	再
		中 川 俊 紀	再	基 幹 労 連	再	再	再
		松 本 圭 介	新	J P 労 組	再	再	再
		本 多 毅	再	電 力 総 連	再	再	再
事 務 局 長	専 従	川 瀬 隆 文	新	情 報 労 連	再	再	再
		高 藤 義 弘	再	基 幹 労 連	再	再	再
		種 村 和 久	新	自 治 労 連	再	再	再
		古 川 洋 介	再	基 幹 労 連	再	再	再
		岩 永 洋 一	新	J P 労 組	再	再	再
副 事 務 局 長	専 従	宮 本 晃 好	再	電 力 総 連	再	再	再
		片 岡 義 洋	再	自 動 車 総 連	再	再	再
		川 田 隆 往	再	電 機 連 合	再	再	再
		嶋 三 郎	再	国 公 連 合	再	再	再
		長 谷 川 流 史	新	フ ー ド 連 合	再	再	再
		山 口 裕 志	再	運 輸 労 連	再	再	再
		松 本 順 一	再	海 員 組 合	再	再	再
		野 原 秀 昭	再	交 通 労 連	再	再	再
		山 下 和 英	再	日 教 組	再	再	再
		松 本 勝 尋	新	自 治 労 連	再	再	再
		久 木 崎 功	再	J R 連 合	再	再	再
		田 尻 正 行	再	私 鉄 総 連	再	再	再
		神 野 精 一 郎	再	全 国 力 入	再	再	再
		鶴 田 英 二	再	全 自 交 労 連	再	再	再
		溝 上 剛 治	再	長 崎 私 交 通	再	再	再
		木 戸 則 之	再	長 崎 電 気 軌 道	再	再	再
		酒 井 隆 明	再	長 崎 地 協	再	再	再
		鴨 川 博 明	再	佐 世 保 地 協	再	再	再
		入 江 良 美	再	諫 早・島 原 地 協	再	再	再
		川 本 良 美	再	大 東・壱 岐・対 馬 地 協	再	再	再
執 行 委 員	非専従	高 井 良 芳 行	再	五 島 地 協	再	再	再
		高 田 美 穂	再	女 性 委 員 会 (日 教 組)	再	再	再
		坂 本 久 美 子	再	女 性 委 員 会 (自 治 労)	再	再	再
		橋 田 和 廣	再	交 通 労 連	再	再	再
		倉 田 昌 明	再	自 治 労 金	再	再	再
会 計 監 査	非専従	小 林 照 尚	新	全 労 金	再	再	再

連合2019平和行動in根室

平和メッセージを伝える高藤事務局長



や来賓者の挨拶の後、択捉島出身者の鈴木咲子さんから「一人でも多くの元島民が元気なうちに、自由に島に行けるように返してほしい」と、一日も早い返還実現を願う訴えがありました。その後、平和メッセージとして連合長崎高藤事務局長から力強いあいさつ、ピースリレーが行われた後、集会アピールが採択され、全員のがんばろう三唱で閉会となりました。

この平和行動に参加して、北方四島の返還を決して諦めることなく返還運動を継承していく事の重要性を共有しました。



連合長崎からの参加者12名

9月6日～9日、北海道根室市にて「連合2019平和行動 in 根室」が開催され、連合長崎から高藤事務局長を団長とする12名が参加しました。

1日目は、北海道立北方四島交流センターにて、北方四島学習会が実施され、「北方領土問題の現状と日口共同経済活動を前進させるために」をテーマにパネルディスカッションと元島民・大学教授などの領土問題と領土返還の想いをテーマに講演がありました。

2日目は、「2019平和ノサップ集会」と題して、歯舞群島が見える納沙布岬・望郷の岬公園で全国各地から1000名もの参加者が集まり、相原連合事務局長

構成組織女性交流会

～女性の健康について学び、そして楽しいお食事・交流～

「女性のライフステージと健康」について学びました



2019年9月28日(土)ホテルセントヒル長崎(長崎市)にて構成組織女性交流会が開催されました。

前半は、「働く女性のライフステージと健康」と題しまして、一般財団法人 女性労働協会の菅原幸子さまにご講演をいただきました。「女性ホルモンが女性のからだや心の状況に影響を与えていること」を学び、月経トラブルや更年期、女性特有のがんなど、自分の身体のことなのに知らないことも多く、がん検診受診の重要性など改めて考える機会となりました。昼食は

テーブルマナーを学びながら、みんなで楽しく交流しました。午後からは「みんなで楽しいレク企画を考えよう」と題して、班別に意見を出し合い、レクリエーション企画を考えました。離島を抱える長崎ならではの離島をめぐる癒しの旅や、防災講座と非常食の試食会、美味しくて栄養もあるスピーディレシピ作りなど、各班アイディア満載のレクリエーション企画が生み出されていました。職場の共通する課題や健康の話題など、それぞれが抱える課題や悩みに共感し合ったり、今回の交流会を通して、楽しい職場や組合活動のヒントを得ていただきました。



各班で工夫を凝らしたレク企画の発表

連合長崎第18回フォトコンテスト最優秀賞が決定！

9月17日(火)に「連合長崎第18回フォトコンテスト」の審査を行いました。今年は85点の応募があり、「陽だまりの海」(佐世保市役所職員組合OB 鈴木寛太郎さんの作品)が最優秀賞に決定しました。来年もたくさんのご応募をお待ちしております。

最
優
秀
賞



「陽だまりの海」
鈴木 寛太郎さん
(佐世保市役所職員組合OB)

優
秀
賞



「落陽」

堀 隆義さん
(全自交県タクシー労組OB)

連
合
長
崎
会
長
賞



「華麗なるジャンプ」

長浦 敏雄さん
(佐世保重工労組OB)

連
合
長
崎
副
会
長
賞



「OH ! Kawasemi」

岩村 栄樹さん
(長崎県職員組合)

入賞



「ピクニック」
鍋内 翔さん
(エムエイチアイマリン
エンジニアリング労組)



「疾走する馬」
左村 博志さん
(西肥自動車労組OB)



「鉄砲隊」
松良 なつみさん
(長崎私交通労組 家族)



「逆さまの世界」
坂田 眞美さん
(三菱重工グループ労連 家族)

佳作



「じいちゃん
ぼく1ねんせいになったよ」
嶋田 一成さん
(佐世保市役所職員組合OB)



「早春のシロウオ漁」
矢津 充浩さん
(佐世保重工労組OB)



「変面シヨ」
(長崎ランタンフェスティバル2019)
竹野 大志さん
(長崎県職員組合)



「千綿駅の落陽」
亀澤 秋人さん
(三菱重工グループ労連)



「悲しいような。嬉しいような。」
桐木 達朗さん
(佐藤造船労働組合)



「グッバイ・ジャンジョイ」
村井 文明さん
(西海市職員組合 家族)



「タオル、持って来て!」
中尾 義博さん
(九電ユニオン)



「いざないの曼珠沙華」
松良 慎之介さん
(長崎私交通労組)



「タソガレ(黄昏)」
中村 昇さん
(佐世保市役所職員組合OB)



「春溪」
小川 美喜雄さん
(佐世保重工労組OB)

「アジア・アフリカ支援米」 各地協で稲刈り！

春に田植えを行った各地協・ブロックにおいて、10月に稲刈り作業を行いました。

今年は、台風19号等の影響により、4地区での開催になりましたが、多くの組合員とその家族が参加し、楽しい汗を流しました。

収穫された支援米は、現在、各構成組織へお願いしていますカンパ金で購入するお米と合わせ、来年1月に支援先に発送予定です。各地協・ブロックの役員、組合員・家族の皆様、ご協力ありがとうございました。



お知らせ



★「連合全体で取り組んでいる課題についての情報が、直接、構成組織の単組や支部まで届く仕組みを構築する」目的で、2015年4月から連合本部が連合メールマガジン(通称:ユニマガ)を月1回配信しております。各構成組織役員・単組支部の役員・地協の役員を含め、メールマガジンの登録をお願いします。パソコンでもスマートフォン・携帯電話でも受信可能です。

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/unimag/add/>

★連合長崎のFacebookを開設しています。連合長崎の活動をできるだけタイムリーにお届けしますので、ぜひ「いいね!」をお願いします。

